

中 世 の 年 表

時代	年代	で き ご と (いわき関係は太字)
鎌倉時代	1185	この頃、鎌倉幕府ができる 頼朝、守護・地頭の任免権をえる
	1189	奥州合戦で平泉の藤原氏がほろびる 岩城清隆が好島荘の地頭になる
	1206	飯野八幡宮が完成する
	1208	好島荘、東西に分かれる 大須賀氏が東荘、三浦氏が西荘の代官となる
	1221	承久の乱おこる
	1232	御成敗式目が制定される
	1247	伊賀氏が好島西荘の代官となる
	1264	恵日寺の木造阿弥陀如来立像が作られた
	1274	元寇(文永の役)がおこる
	1285	薬王寺の一番古い板石塔婆が建てられた
	1295	薬王寺で禅弁が真言律宗の教えを説いた
	1333	鎌倉幕府がほろびる
南北朝時代	1334	建武の新政 いわきの武士が南北朝の戦いに参加する
	1338	室町幕府ができる
	1346	好島荘の地頭、飯野八幡宮放生会流鏑馬の役をつとめる
	1347	恵哲が長隆寺を開山する
	1379	鏡仁が妙見寺を開山する
	1381-84	鎌倉で学んだ僧、甚恵が恵日寺を中興する
室町時代	1392	南北朝の統一
	1397	金閣寺ができる
	1410	海道五郡一揆
	1442	岩城隆忠が岩崎一族の内紛に介入する
	1446	岩城隆忠が鏡祐を迎えて薬王寺を再興する
	1467	応仁の乱がおこる この頃、岩城氏が戦国大名となる
	1483	岩城常隆が大館城をつくった
	1536	恵日寺7世雄仁によって長隆寺が再建される
	1543	種子島に鉄砲が伝来する
	1569	長隆寺の地藏菩薩の錫杖が修復される
戦国時代	1573	室町幕府がほろびる
	1582	本能寺の変がおこる
	1595	佐竹氏による岩城領の検地が行われる
	1600	関ヶ原の戦いがおこる



鎌倉時代の子供の服装



戦国時代の戦の服装

参照 『みんなで学ぼう いわきの歴史』 2023、『図説いわきの歴史』1999

* カットは「いわき七浜イケメンプロジェクト」の四倉の海を擬人化した「四倉亀吉」のオリジナルイラスト

中世

恵日寺



恵日寺の本堂（2023年11月撮影）

もくぞう あみだ によりいりゅうぞう 木造阿弥陀如来立像

阿弥陀如来は西方の極楽浄土の仏で、すべての人を救う存在として多くの信仰を集めている。

本像は木造寄木造り、金箔を漆で接着させた漆箔像。もとは会津桂林寺に安置されていたが、江戸時代に当寺に寄進されたと伝わる。

像の内側に「奉迎年ハ、文永元年(1264)8月15日公慶」と墨で書かれており、いわき市内で年代が明記されている最も古い仏像といわれている。



木造阿弥陀如来立像 福島県指定重要文化財
(彫刻) 恵日寺蔵 鎌倉時代 (像高 52 cm)
『いわき市の文化財』2017

恵日寺伝説



恵日寺境内のお堂（2023年11月撮影）

諸説あるが、四倉の恵日寺は、平将門の三女、滝夜叉姫の終焉の地と伝えられている。

寺伝によれば、天慶3年(940)、平将門の娘は当寺に逃れて、如蔵尼として地藏菩薩を信仰し、地藏堂を建てたとされる。平安時代末に成立した『今昔物語』と鎌倉時代に書かれた歴史書『元亨釈書』には地藏菩薩と如蔵尼の記述がある。南北朝時代に郡主の娘が如蔵尼に影響を受けて地藏菩薩を信心し、隆恵尼として、当地に草庵を結んだ。

薬王寺

えんじゅさんきやうおういん

延寿山教王院薬王寺は、真言宗智山派の寺。

寺史によれば、平安時代に僧徳一が奥州布教の
おり、八^{やぐき}茎嶽に薬師堂を建立したことから始まる。

金沢文庫に、当寺において永仁3年(1295)、鎌倉の僧禅弁が真言宗の教典を口述したとの記録があることから、学問所として繁栄したことがわかる。

南北朝時代の争乱で全山焼失したが、文安3年(1446)に岩城隆忠が再興し、千葉の僧鏡祐を迎えて開山した。延享4年(1747)の記録には多くの堂宇を持つ大伽藍と記されていたが、慶應4年(1868)の戊辰の役のため、再び焼失した。



薬王寺本堂 (2024年6月撮影)

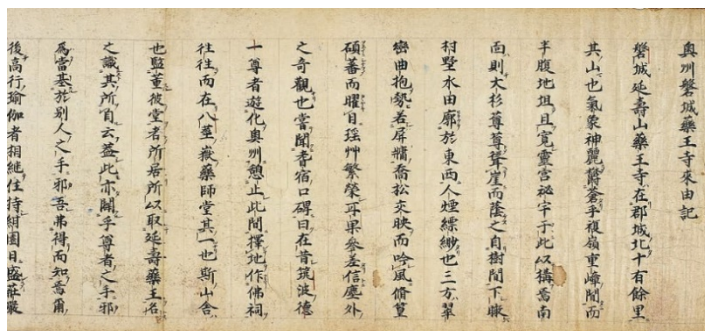
* 金沢文庫は、金沢北条氏の文庫に起源を持つ神奈川県横浜市にある県立の中世歴史博物館。

おうしゅういわき やくおうじらい ゆき

奥州磐城薬王寺来由記

この書は、同寺19世住職の禅海が隠退するにあたって貞享4年(1687)に同寺の由来を記したものに、門弟の実養がつくった禅海の伝記等を加えたものである。後継者の禅悦が、宝永6年(1709)に一卷にまとめた。

また、22世圓胤も享保14年(1729)に完成した歴史書『延寿護法録』(市指定有形文化財・典籍)に寺の由来と歴代住職を記しており、東国での布教の実態や醍醐寺、高野山、根来寺で学んだ住職の研鑽ぶりがわかる。



奥州磐城薬王寺来由記 いわき市指定有形文化財(書跡)

薬王寺 蔵 江戸時代 (縦 29.3 cm × 横 627.0 cm)

『いわき市の文化財』2017

いたいしとうば

板石塔婆

板石塔婆は、^{いたび}板碑ともいわれる石の供養塔。全国に分布しているが、特に関東地方が多く、鎌倉時代から室町時代に造られた。いわき市内では、薬王寺を中心に分布し、同寺の参道や境内に58基が林立する。

年代は弘安8年(1285)から永和4年(1378)にかけてのもので、この地域を好島東荘として大須賀氏が支配していた頃より、建てられたと考えられる。

花崗岩の高さ1mほどの自然石の上部に二本の横線、その下に仏を表す梵字、供養の趣旨や年月日を彫り込み、下半分を土中に埋めて建てている。



板石塔婆 いわき市指定史跡 薬王寺蔵
鎌倉時代 『いわき市の文化財』2017



ずしりこんどうほうきょういんしゃりとう
厨子入金銅宝篋印舍利塔

同寺を再興した鏡祐が、師僧から授与された宝器で代々の住職に伝授されている。黒漆塗りの厨子の中に、内側は金箔と漆箔を重ね、和鏡を埋め込み、その上に水晶板を窓にした金銅製の工芸的な文様の供養塔を取りつけている。

厨子入金銅宝篋印舍利塔 国指定重要文化財(工芸)
薬王寺蔵 鎌倉時代
(厨子高 22.8 cm 厨子幅 15.6 cm 塔高 10.5 cm)
『いわき市の文化財』2017

けんぼんちゃくしよくみろくぼさつぞう
絹本着色弥勒菩薩像

弥勒菩薩は、末法思想により、釈迦の滅後に人々を救う未来仏として信仰されている。

来迎図は阿弥陀如来が諸菩薩を従える図が多いが、本図は単独の来迎図で、雲に乗って人間界に下降する姿を描いている。傷んだ部分もあるが、絹の布に朱、群青、緑青の彩色を施した華麗な仏画である。



絹本着色弥勒菩薩像 国指定重要文化財(絵画)
薬王寺蔵 鎌倉時代後期 (縦 155 cm×横 58.8 cm)
『いわき市の文化財』2017



もくぞうもんじゅぼさつ きしぞう
木造文殊菩薩騎獅像

文殊菩薩は知恵を授ける菩薩として信仰されている。釈迦如来の脇侍として、象に乗った普賢菩薩と対になることが多いが、単独では経蔵の本尊となる。

『延寿護法録』に「20世日元が経文を集めて経蔵を建て、磐城平藩主の内藤義孝が、その完成を喜び、本尊として、この像を寄進した。」とあり、内藤家の文書には、元禄16年(1703)と記されている。

木造文殊菩薩騎獅像 国指定重要文化財(彫刻)
薬王寺蔵 鎌倉時代 (総高 108.8 cm 像高 41.8 cm)
『いわき市の文化財』2017

ちょう りゅう じ
長 隆 寺

無量山阿弥陀院長隆寺は真言宗智山派の寺。

寺伝によれば、好島荘大野郷の地頭であった岩城小次郎は、長子長隆の早世を悲しみ、長隆が師事していた恵哲を招いて貞和3年(1347)に開山し、長隆の信心していた阿弥陀仏を納めたと伝えられている。

一時荒廃したが、天文5年(1536)に恵日寺7世雄仁によって再建された。



長隆寺の阿弥陀如来 (2024年6月撮影)



長隆寺地藏堂 (2024年6月撮影)

じぞうどう
地藏堂

本堂の左側の地藏堂は、文政3年(1820)、渡辺最左衛門によって再建された朱塗りの堂宇で、本尊は地藏菩薩である。

頭上の天井には花鳥人物等が描かれ、大きな絵馬が数枚奉納されている。

もくぞうじ ぞうぼさつりゅうぞう
木造地藏菩薩立像

地藏菩薩は、釈迦入滅後、現世の人々の苦を除き、福を与える菩薩として信仰されている。

本像は檜材の寄木造り、鎌倉の円覚寺の長老から送られたと伝えられる。額の白毫と目には水晶がはめており、参拝するとその視線に驚かされる。

右手の錫杖には、「大地蔵菩薩 長友之村、本願行海十穀、造工源十郎 永禄12年(1569)6月1日」の銘が刻まれており、修復されたことがわかる。

貞享3年(1686)7月、磐城平藩主内藤義孝が、この仏像を修理のために一時平城に移し、寺に戻した記録がある。また、この像が子どもの姿となって田の作業を手伝ったという伝説があり、親しまれている。

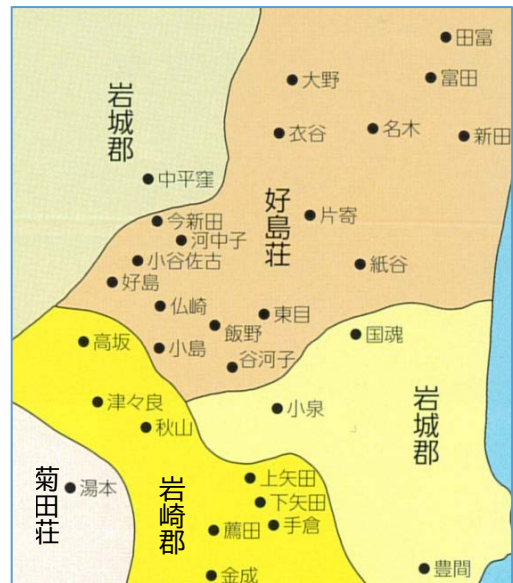
木造地藏菩薩立像 国指定重要文化財(彫刻)
長隆寺蔵 南北朝時代 (像高 176.5 cm)
『いわき市の文化財』2017



いわき 岩城氏

岩城氏は、陸奥国岩城郡の中世の豪族で桓武平氏の武士、常陸大掾平国香の子孫と伝えられている。常陸は今の茨城県で、大掾は国の地方役人の官職位である。

平安時代の末に岩城郡に移り住み、新しい田畑を開発し、自分の領地とし、岩城氏と名乗った。奥州藤原氏や清原氏とも縁を持ち、この地の地頭を勤めていたと考えられる。鎌倉時代初期、岩城清隆は奥州合戦で源頼朝に味方し、ほうびとして「好島荘」を預かる地頭となった。



鎌倉時代の地名

『みんなで学ぼう いわきの歴史』2023



八茎寺薬師堂（2024年6月撮影）

はつきょうじ 八茎寺

ぶっしょうざんじょうこういん

仏生山常光院八茎寺は、真言宗智山派の寺。

平安時代に僧徳一が磐城三薬師のひとつとして薬師堂を建てたと伝えられる。

この薬師には隆忠の伝承がある。岩城清胤には子がなく、当薬師に祈ったところ、子が誕生した。その掌に隆忠（薬王寺の元住職）の文字があったという。後年、岩城隆忠は薬王寺を再建した。

*「やぐきじ」と読む資料もあるが、住職に確認したところ、「はつきょうじ」と伝えられていた。

いわき 岩城氏の居城

鎌倉時代の文書等より、地頭岩城氏の本拠地は大野郷にあったと考えられる。岩城氏の一族は、周辺の土地を分けてもらって館を建てて住み、その土地の地名を名字にしていた。鎌倉幕府と関係結び、住んでいる土地を領地として認められていた。

室町時代になると、白土城にいた岩城氏の勢力が強くなり、常磐にいた岩崎氏を滅ぼし、他の武士たちを抑えて、岩城地方を統一した。

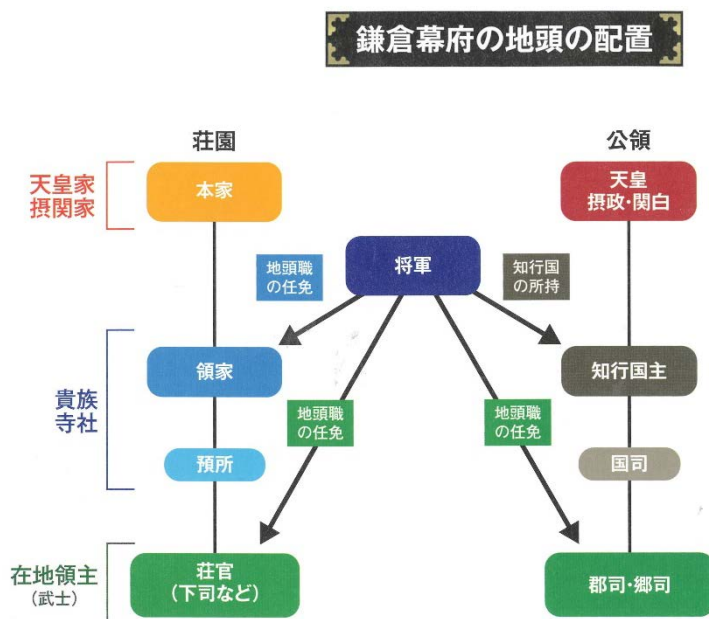


●鎌倉・室町時代の主な城あと

市内では、鎌倉時代から室町時代の城あとが200以上見つかっています。

『みんなで学ぼう いわきの歴史』2023

鎌倉幕府と地頭



『「荘園」で読み解く日本の中世』

伊藤俊一 監修 宝島社 2023

奈良時代は公地公民(土地と人民はすべて国の所有)だったが、新田開発等で例外的に私有を認めると、貴族や寺社、後に武家も荘園(私有の農園)を持つようになった。

文治元年(1185)、源頼朝は、天皇の許可を得て各地の荘園、公領に地頭として御家人(頼朝と主従関係を結んだ武士)を任命した。地頭は地方の役人や地方の有力者である武士から選ばれ、警察権や徴税権を持った。

鎌倉幕府が地頭の任命権を得たことで、貴族や寺社の力は弱まり、次第に武士が力を持つようになった。

たきやしやひめ がいこつ

淹夜叉姫と骸骨の図



※国立国会図書館デジタルコレクション (インターネット公開)

歌川国芳による弘化 2-3 年(1845-1846)頃の錦絵。淹夜叉姫は、^{げんこうしゃくしょ}『元亨釈書』の平将門の娘で、^{くによし}恵日寺に伝説が残る如蔵尼がモデルと考えられている。元々は武家の女性と地藏信仰が結びついた話であったが、近世になって伝説化され、^{うとうやすかたちゆうぎでん}弟良門と源氏に復讐する話に発展。これをもとにした山東京伝の読本『善知鳥安方忠義伝』(1806)により、姫の怨念と復讐の話が定着し、歌舞伎や浄瑠璃に登場するようになった。

寺伝によれば、康暦元年(1379)、鏡仁は、妙見寺を開山し、ご本尊の妙見尊を千葉から迎えてお祀りしたと伝える。現在は、廃寺となり、妙見堂に祀られている。

妙見尊は、妙見菩薩とも言われ、北極星もしくは北斗七星を神格化したものと考えられている。

平安時代の中期から関東に勢力をはった桓武平氏の間には、妙見信仰が強く普及していた。

千葉常胤は奥州合戦の論功として、好島荘の預所職を受けられた。常胤の四男である大須賀胤信がこの預所職を引き継ぎ、大須賀氏が当地方に移住するに従って、妙見信仰も移されたとみられる。



木造妙見尊立像

県指定重要文化財(考古資料)
妙見堂蔵 鎌倉時代(像高 27 cm)
『いわき市の文化財』2017

*「中世の年表」(p8)は、「預所職」を「代官」で代用。

『いわき民報』

令和6年6月6日 第15面

四倉・玉山地区で雨乞い儀式

玉山農事組合 農家ら適雨・適照願う

四倉町表玉山地区の田んぼの一角にある小さな祠で2日、「雨呼び」と言われる珍しい伝統儀式が行われた。祠には「雷神様」が祭られており、田植えの作業が一段落する6月の第1日曜日に農業を営む表玉山地区の住民が集まり、五穀豊穡のための適雨・適照を祈願。いまは玉山農事組合(高木淑裕組合長)が主催しており、今年は住民ら15人が祠の傍らにたすみ、雷神様の依り代となっている一本杉を前に読経と献杯をささげ、豊かな実りを願った。

四倉・大野地区を中心「い範囲で行われていた。に長く郷土史を研究し、田植えなどになっても大野公民館の市民講師も雨が降らないと、区長がごをされたという。雨乞務める馬場喜好さんの研究儀式の触れを村に出し、いが残っているのは市内究資料によると、雨乞い村人たちは雲ひとつなでは玉山地区だけで、今年の儀式に参加した住民の儀式は正時代の末「カンカン照り」でも年の儀式にたすみ、雷神様の依り代となっている一本杉を前に読経と献杯をささげ、豊かな実りを願った。



雷神様の祠の前で行われた雨乞い儀式
杉の木は「雷神様の一本杉」と呼ばれ、雷神様の依り代とされるが、今の一本杉は3代目で高さは15メートル、樹齢は約50年。2代目が春一番の強風で倒れたあと、1976(昭和51)年5月に住民たちが植樹した。
玉山区長の荻恒夫さんは「初代は病気で幹の中が空洞になり、ダメになった。田んぼが近く湿った土地なので、根が成長すると地中の水分の影響で傷んでしまつた。振り返るが、周辺の田んぼは2年後に圃場整備が計画されており、杉の木も祠の移転とともに新たに植えることが検討されている。ただ、雨呼びの儀式は表玉山地区の伝統行事として今後も続けていく。」
◇ 当日は紅白の垂れ幕やのぼり旗がはためく中、真言宗智山派の寺院で福島八十八カ所霊場でもある金光寺(四倉町玉山)の藍原法明副住職が祠の前で読経をした後、住民らが献杯をささげ、適雨・適照とともに五穀豊穡を祈願した。
伝承にあるように蓑笠姿ではないが、住民たちは日照りや水害なく無事に秋の実りを迎えることを願っていた。

令和6年3月、空海が祈祷で雨を降らせたと伝えられる京都の神泉苑で1200年を記念する法要が行われた。

四倉地区の雨ごい行事は、いわき市内で唯一続けられている。

太古の地層、文化財、農産品と水産物に恵まれた四倉は、自然と共生している。

>>> 関 連 資 料 <<<

○地形関係

- ◆『いわき市・東日本大震災の証言と記録』 いわき市 2013 (K/369/イ)
- ◆『いわきの地誌』 いわき地域学会 2016 (K/291/イ/2016)
- ◆『夏井川とともに20年』 夏井川流域住民による川づくり連絡会 2022 (K/517/ナ)
- ◆『福島県の河川』 福島県土木部河川課 1969 (K/517/フ)
- ◆『土地分類基本調査 平』 福島県農林水産部農地計画課 1994 (K/450/フ)
- ◆『未来へつなぐ「いわき」ものがたり』 いわき市 2016 (K/318.2/イ)
- ◆『みんなで学ぼう いわきの歴史』 新版 いわき市教育委員会 2023 (K/210.1/1/イ)
- ◆『四倉の歴史と伝説』 本多徳次 著 四倉郷土史資料集成刊行会 1986 (K/210.1/1/ホ)

○古生代

- ◆『いわき化石ガイド』 いわき市観光物産協会 2007 (K/457/イ)
- ◆『いわき市史 第5巻 自然・人文』 いわき市 1973 (K/210.1/1/イ)
- ◆『いわき市の文化財』 いわき市教育委員会 2017 (K/709/イ)
- ◆『いわきの化石 2 無脊椎動物・植物編』 いわき市教育文化事業団 2015 (K/457/イ)
- ◆『いわきの化石 3 新たな発見』 いわき市教育文化事業団 2023 (K/457/イ)
- ◆『日本列島地質総覧』 朝倉書店 2022 (455.1/ニ)
- ◆『日本地方地質誌 2 東北地方』 日本地質学会 編 朝倉書店 2017 (R/455.1/ニ/2)
- ◆『ふくしま5億年の自然史』 福島県立博物館 2017 (K/450/フ)
- ◆『月刊アンモナイト通信』

○古 代

- ◆『荒田目条里遺跡』 いわき市教育委員会 2001 (K/210.2/1/イ/75)
- ◆『石城国建国千三百年展』 いわき市考古資料館 2018 (K/210.3/1/イ)
- ◆『いわきの遺跡めぐり』 いわき市観光物産協会 2006 (K/291-サ)
- ◆『いわきの古代』 いわき市教育委員会 2009 (K/210.3/1/イ)
- ◆『いわきの古墳時代 1』 いわき市教育文化事業団 2021 (K/210.2/1/イ)
- ◆『いわきふるさと大百科』 郷土出版社 2007 (K/210.1/1/イ)
- ◆『海から読み解く日本古代史』 近江俊秀 著 朝日新聞出版 2020 (K/683/ホ)

- ◆『国史跡 根岸官衙遺跡群』 いわき市教育委員会 2008 (K/210.2/1/イ)
- ◆『常磐自動車道遺跡調査報告 11』大猿田遺跡(2次調査)本文
福島県教育委員会 1998 (K/210.2/1/7/11/1)
- ◆『諸本集成倭名類聚抄 本文篇』 源順 || 著 臨川書店 1981 (R/813.2/ワ/1)
- ◆『図説 いわきの歴史』 郷土出版社 1999 (K/210.1/1/イ)
- ◆『玉山古墳』 いわき市教育委員会 2009 (K/210.2/1/イ)
- ◆『地図からいわきの歴史を読む』 鈴木貞夫 || 著 2002 (K/210.0/1/ス)
- ◆『東北「海道」の古代史』 平川南 || 著 岩波書店 2012 (K/212.3/ヒ)
- ◆『戸田条里遺跡』 福島県いわき農地事務所 1991 (K/210.2/1/イ)
- ◆『夏井廃寺跡』 いわき市教育委員会 2004 (K/210.2/1/イ/107)
- ◆『根岸遺跡』 いわき市教育委員会 2000 (K/210.2/1/イ)
- ◆『南奥(ふくしま)の古代通史』 鈴木啓 || 著 歴史春秋出版 2009 (K/210.1/0/ス)

○中 世

- ◆『いわき市史 第1巻 原始・古代・中世』 いわき市 1986 (K/210.1/1/イ)
- ◆『いわき市史 第2巻 近世』 いわき市 1975 (K/210.1/1/イ)
- ◆『いわき市史 第6巻 文化』 いわき市 1978 (K/210.1/1/イ)
- ◆『いわき市史 第8巻 原始・古代・中世資料』 いわき市 1976 (K/210.1/1/イ)
- ◆『岩城氏と岩崎氏の中世』 中山雅弘 || 著 高志書院 2024 (K/210.4/1/ナ)
- ◆『いわきのお寺さん』 今井速水 || 編 協和印刷 1991 (K/185/イ)
- ◆『いわきの板碑調査報告書』昭和62年度 いわき市教育委員会 1988 (K/186/イ)
- ◆『いわき史跡めぐり』 佐藤孝徳 || 著 いわき市観光物産協会 2003 (K/291/サ)
- ◆『いわきの文化財』 今井速水 || 編 いわきの文化財出版会 1983 (K/709/イ)
- ◆『今昔物語集 3 本朝部』 平凡社 2007 (913.3/コ/3)
- ◆『荘園』 伊藤俊一 || 著 中央公論新社 2021 (S/210.4/イ)
- ◆『「荘園」で読み解く日本の中世』 伊藤俊一 || 監修 宝島社 2023 (210.4/シ)
- ◆『神道大系 続 論説編 元亨釈書和解 3』 神道大系編纂会 2005 (170.8/シ/155)
- ◆『日本架空伝承人名事典』 平凡社 2012 (R/281.0/ニ)
- ◆『浜通りの仏像』 福島県立博物館 1991 (K/069/ハ)
- ◆『四倉郷土史資料集成 第5輯』 本多徳次 || 著 四倉郷土史資料集成刊行会 1982 (K/210.1/1/ホ)
- ◆『四倉郷土史資料集成 第6輯』 本多徳次 || 著 四倉郷土史資料集成刊行会 1986 (K/210.1/1/ホ)

協 力

恵日寺

高倉山古生層所有者

長隆寺

妙見堂

薬王寺

いわき市アンモナイトセンター

いわき市考古資料館

いわき市石炭・化石館

いわき市大野公民館



企画展「古代と中世の四倉」

令和 6 (2024) 年 11 月 29 日 発行

■編集・発行 いわき市立いわき総合図書館

■会期 令和 6 (2024) 年 10 月 29 日 (火) —
令和 7 (2025) 年 8 月 24 日 (日)

■会場 いわき総合図書館 5 階 企画展示コーナー

遺跡・史跡 位置関係略図



2024制作

